

目指す学校像	夢と希望をもち、人間性豊かで心身ともにたくましい子を育成する学校～認め合い・学び合い・共に育つ～
--------	--

重点目標	1 「主体的・対話的で深い学び」を実現できる授業を創造し、確かな学力そしてやり抜く力を育む 2 健やかな体をはぐくみ、健康や安全に気を付けて生活できる能力の育成を図る 3 地域に根ざした信頼される学校づくりを推進する 4 教職員が健康で生き生きと働くことができる職場づくりを推進する
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価					年度評価		学校運営協議会による評価	
年度目標					年度評価		実施日令和5年2月16日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○タブレット端末を児童が使用する機会が増え、ドリルパークを用いた個別学習や家庭での課題学習を通して学習内容の定着が図れるようになってきた。 ○調べたことを整理してまとめ、プレゼンテーションすることに意欲的に取り組む児童が多い。(課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、平均点周辺の児童や平均点以下の児童の学力をどのように向上させていくかが課題である。 ○国語・算数ともに全国、市平均以上の点数はとれているが、「国語が好きである」「算数が好きである」の問いへの肯定的な回答が全国、市の平均よりも低い傾向が見られ、達成感や充実感を味わえるようにすることが課題である。	・個別最適な学びに向けたタブレット端末の活用、授業改善 ・学ぶ楽しさを実感できる「主体的・対話的で深い学び」の授業の創造	①全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果をタブレット端末上のシートに入力することで、児童が自らの学習状況を把握できるようにする。 ②国語、算数について、ドリルパークやスタディサプリなどに取り組みせるとともに、担任は取組状況を把握しながら児童が目標をもって学習できるように指導する。	①児童が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動できるようになったか。 ②国語、算数について、全児童に対して学期に1回以上、学習への取組状況を基に学習相談を行うことができたか。 ③「よい授業」の4つの因子それぞれについて、全教職員の平均値を第1回調査より0.3ポイント向上しているか。	①全国学力・学習状況調査について、自己採点の結果から、自己の学習状況について振り返り、目標を立てた。目標達成に向けて自主学習等を積極的に行うことができた。 ②学習や生活状況について全児童に対して、面談やアンケート調査等により、取組状況や成果と今後に向けた課題を確認することができた。 ③よい授業アンケートの結果について平均値を0.3ポイント向上できた。	B	・一人ひとりの学力に応じた個別最適な学びの実現に向けて、さらなる授業改善を実施する。 ・タブレット端末の効果的な活用方法について校内研修等にて情報共有していく。	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 ・全国学力学習状況調査等の結果より、一人ひとりが学習に対して真剣に取り組んでいることが伺えた。その一方で、学習に対して苦手意識をもっている子どももいる。今後は個別最適な学びの一層の充実を目指してほしい。 ・タブレットを活用した授業を子どもたちは楽しんで取り組んでいる。今後も効果的な活用をしてほしい。
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「自分にはよいところがある」等の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国、県平均を上回った。 ○昨年度、学校管理下でのけがで医療機関を受診したけがは54件であった。(課題) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのは楽しい」等の質問に肯定的に回答した児童の割合が、全国、県平均よりも下回った。コロナ禍によるストレス等の影響が大きい。今後も、児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○教職員の死角になる場所が多く、危険箇所の点検とともに、児童が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが課題である。	・児童一人ひとりへの細やかな生徒指導・教育相談に向けた校内体制の充実 ・安全・安心な学校生活を送る児童の育成	①学期1回の「心と生活のアンケート」に加え、月1回のアンケートを実施し、必要に応じて面談を実施する。 ②教育相談日を月に1回設定し、保護者からの相談に積極的に対応できるようにする。また、面談記録シートを作成し、面談等の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。	①学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ②学校自己評価に係る児童アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が85%以上となったか。	①早期対応を心掛け、問題が発生した際には、できるだけ早く管理職・学年主任・生徒指導主任等への報告・連絡・相談を実施することができた。保護者アンケートにおいて、約80%が肯定的な回答となった。 ②いつでも誰にでも相談できるように児童へ指導しているため、必要に応じて複数で相談に対応するなどして、児童アンケートも85%以上が肯定的な回答となった。	B	・日頃から学校と保護者の連絡をとり、信頼関係を構築する。早期発見・早期対応を徹底し、今後の見通しや対応について共通理解を図るようにする。 ・教育相談日の情報提供やSC・SSW等の役割の紹介等を年度初めに保護者へ周知する。	
3	(現状) ○今年度より学校運営協議会が立ち上がり、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、自ら課題を見出し、協働して解決していく児童を地域全体で育てていくことを共有した。(課題) ○今年度は、昨年度に学校運営協議会で共有した目指す児童の姿の実現に向けて、家庭、地域などにおいて、それぞれができることへ積極的に取り組んでいくようにする。また、児童に育てたい力についてさらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。	・目指す児童の姿を地域全体で共有するためのICT活用 ・児童に付けた力を育成するための取組に向けた計画の策定と行動	①本校HP内に、学校運営協議会やSSNの情報を発信するページを作成し、目指す児童の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ②学校だよりにおいて地域や保護者に学校の情報提供し、学校の教育活動や児童の成長に対する関心を高める。	①学校自己評価に係る保護者アンケートで、関連する項目で肯定的な回答する割合が80%以上となったか。 ②学校自己評価に係る保護者アンケートで、地域の教育資源に関する項目で肯定的な回答する割合が65%以上となったか。	①学校ホームページの更新作業を定期的実施するとともに、見やすくなるようにレイアウトを変更した。保護者アンケートにおいて85%以上の肯定的な回答となった。 ②SSNや学校運営協議会等を通して、地域の協力を依頼し、昨年より活用することができたため、70%以上の肯定的な回答となった。	A	・学校ホームページに学校だよりや学年だよりを掲載することで、学校の様子を伝えることができた。今後は、児童の活動の様子を定期的に情報発信できるような工夫をしていく。	
4	(現状) ○教職員の業務改善を推進するために一人一台のタブレット端末をはじめとしたICT機器の活用方法について、エヴァンジェリストが中心となり研修を重ねている。 ○授業準備や生徒指導について、学年や部会の先生方と共有しながら取り組んでいる。(課題) ○学級や教職員の間で差が生じている。情報共有を図り、誰でも活用できることが課題である。 ○熱心に授業準備等を行うために、時間外在校時間が多くなってしまっている。	・一人ひとりの時間外在校等時間を減らしながら、効率のよい業務推進	①毎月1回、ICT機器の活用方法について、研修を実施する。また、共有のフォルダ等を作成し、教材を他の教員も活用できるようにする。 ②時間外在校等時間が把握できるように毎月末に記録表を渡して、チェックをする。	①日常的にICT機器を活用する状況になったか。 ②全ての教員が、業務改善に取り組み、結果として95%以上の教員が肯定的な回答ができたか。	①ICT機器やアプリ・ソフト等の活用について毎月職員向けの手紙をエバンジェリストが発行して共通理解を図ったり、推進委員会を開催して課題やトラブル解消に向けた話し合いを行ったりした。タブレット端末を効率的に使うことで業務時間の短縮となった。 ②学校評価において「業務改善・働き方改革」の項目では、肯定的回答が85%だった。ただし、前年比の時間外在校等時間が17%減少した。	B	・定期的に研修を行うことで理解が深まった。次年度以降も業務改善につながるような研修を積極的に行う。 ・一人で問題を抱え込まないようにすることで、解決までの時間を短縮できる。教職員の悩み等についても、できるだけ早期に改善できるように風通しのよい職場づくりを目指し、日頃からのコミュニケーションを密にとっていく。	